

生き生き 就労の場

平塚のスーパー「しまむら」働く障害者喜びの声



「しまむらストアー長持店」で野菜の袋詰め作業に携わる加藤さん（手前左）と久永さん（右）
—平塚市長持

業務請負 双方メリット

スーパーの「しまむら」（平塚市長持）が取り入れている知的障害者の施設外就労（業務請負）は、障害者と企業の双方にメリットを生んでいる。障害者は社会参加、就労訓練の場を得られ、収入の確保にもつながる。一方企業側は、チーム制のため欠勤がなく複数の作業を任せられる上、雇用管理の負担が軽くなる。何より、働くことに喜びを感じる障害者の姿がある。

（熊谷 和夫）
＝本記24面に

しまむらで働くのは、社「塚市万田」の施設「しんわ会福祉法人「進和学園」（平）ルネッサンス」（同市上吉）の就労継続支援B型（非雇用）の利用者5人。本人の希望と適性から選ばれた。これまで同施設内で清掃やシイタケ栽培などをしてきたが、施設外で新たな就労の場を得て生き生きと仕事に励んでいる。

「青果の袋詰め作業が好き。大きな声を出して頑張っている」と話すのは山田芳寛さん（22）。北村敏太さん（29）は「品出しや袋詰めを頑張っている」。久永小百合さん（29）は「袋詰め作業を中心に頑張っている。難しいけど楽しい」と笑顔を見せる。

「まだ慣れないけれど、袋詰めを頑張っている」と加藤良江さん（40）が言え、上杉正博さん（49）も作業の中で清掃が一番楽しい」と話す。

チームを引率しサポートしている進和学園スタッフの内藤美穂さん（22）は「利用者が大きな声であいさつをしながらお辞儀ができるようになり、できる仕事の種類が増えるなど、成長を実感する瞬間が喜び」と語る。

しまむらは、すでに障害者の法定雇用率を満たし、さらなる雇用は経営上厳しいのが実情。だが業務請負なら、施設側のスタッフが障害者の人事管理、サポート、仕事の指導などを行うため、安心して障害者に任せられるメリットがある。

長持店の大友康弘店長は「パートさんに比べれば作業はゆっくりだが、真面目に一生懸命働いてくれていて気持ちがいい。従業員の間には」と喜ぶ。

施設外就労を提案した在宅就業支援団体「研進」（平塚市上吉沢）の出縄貴史社長は、フランスの事例を引き合いに、「企業が障害者に仕事を発注した場合は、法定雇用率に加算する『みなし雇用制度』を導入すべきだ」と指摘している。